

# ナスのカスミカメムシ類の 発生と被害の調査

京都府京都乙訓農業改良普及センター

# 調査の目的

- カスミカメムシ類は、ナスの生長点を加害し、被害を確認してからでの防除では、手遅れになることが多い。
- しかし、その発生生態は不明な部分があり難防除害虫である。
- そこで、カスミカメムシ類のナスほ場やその周辺での発生消長及び加害状況を把握し、減農薬防除法の確立に資する。



コアオカスミカメ成虫 体長:5mm





# 調査について

- 調査ほ場の場所
  - ①大原野 2カ所
  - ②長岡京市 3カ所(うち1カ所は黄色蛍光灯設置)
- 調査項目(2週間ごとに調査)
  - ①ナスほ場におけるカスミカメムシ類の被害調査
  - ②ナスほ場周辺の雑草地でのカスミカメムシ類発生数(すくい取り)

- 調査方法

- ①ナスほ場におけるカスミカメモシ類の被害調査

- 1ほ場 10株 3枝／1株

- 無：被害無し

- 少：葉にせん孔若干あり

- 多：葉に多数のせん孔あり

被害度 = 無の枝数 × 0 + 少の枝数 × 1 + 多の枝数 × 2 / (全調査枝数 × 2) × 100

- ②ナスほ場周辺の雑草地でのカスミカメモシ類発生数(すくい取り)

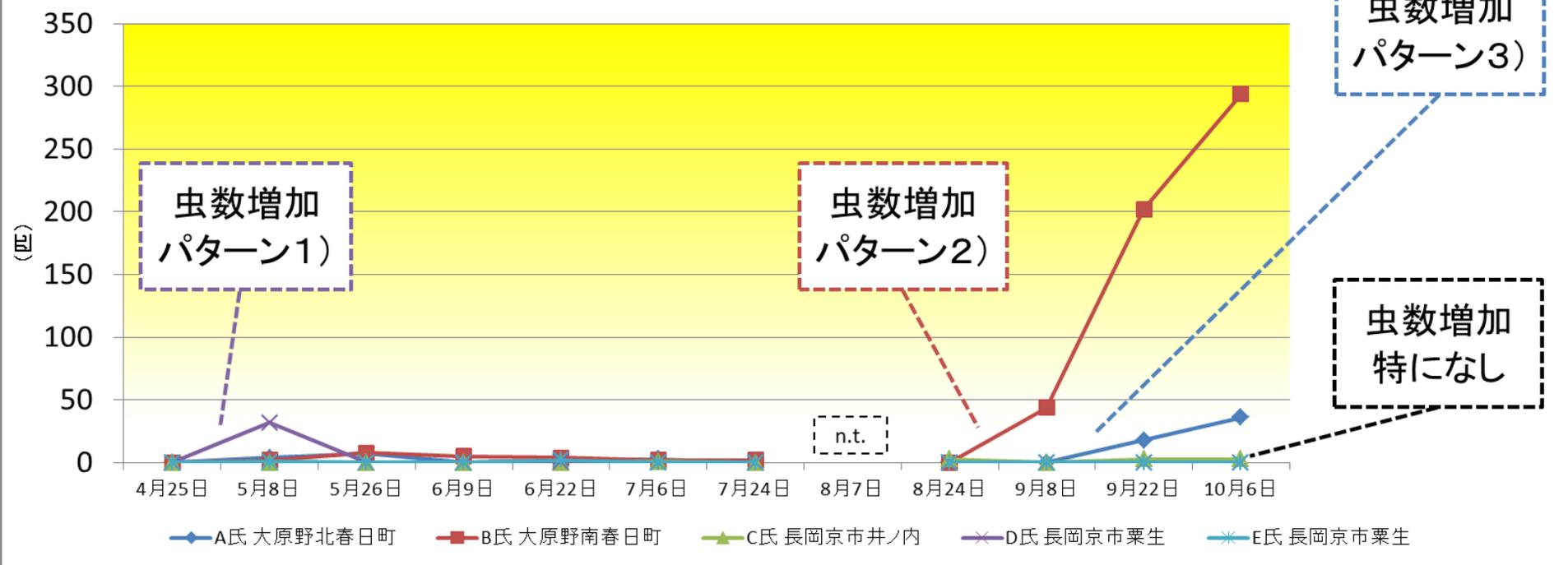
- 捕虫網で往復10回のすくい取り





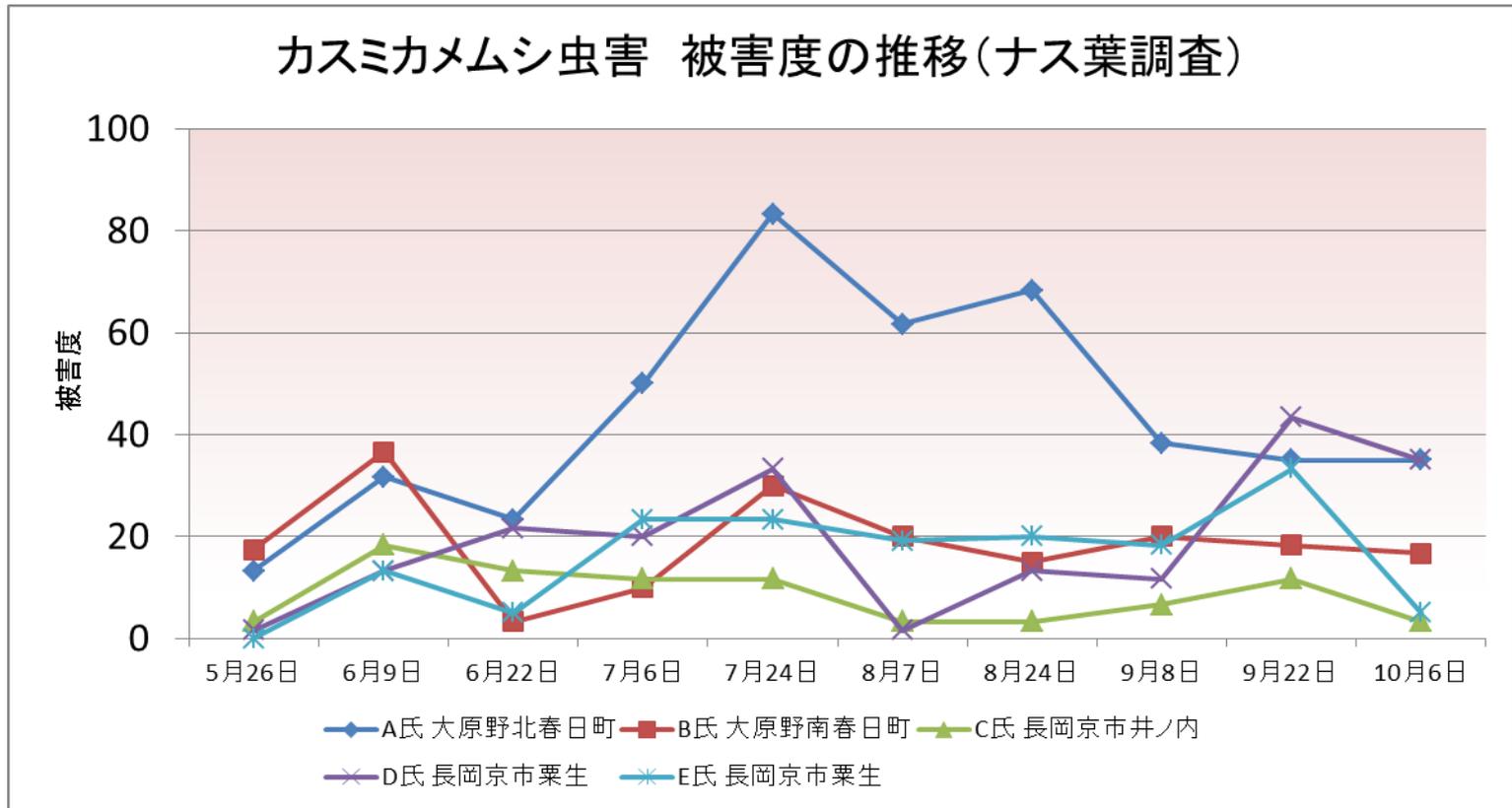
# 虫数の推移

露地ナス圃場周辺雑草におけるカスミカメムシ虫数の推移(すくい取り)



周辺雑草で虫数増加する要因は？

# 被害の推移

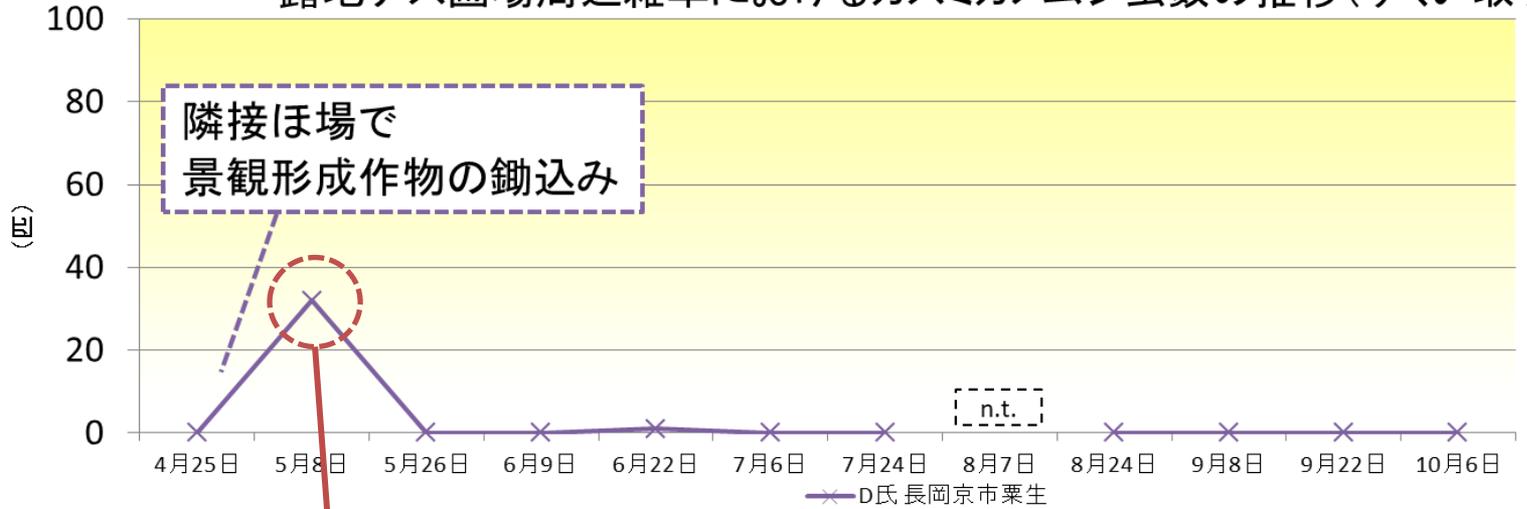


雑草の虫数とナス被害の関係は？

# パターン1)の場合

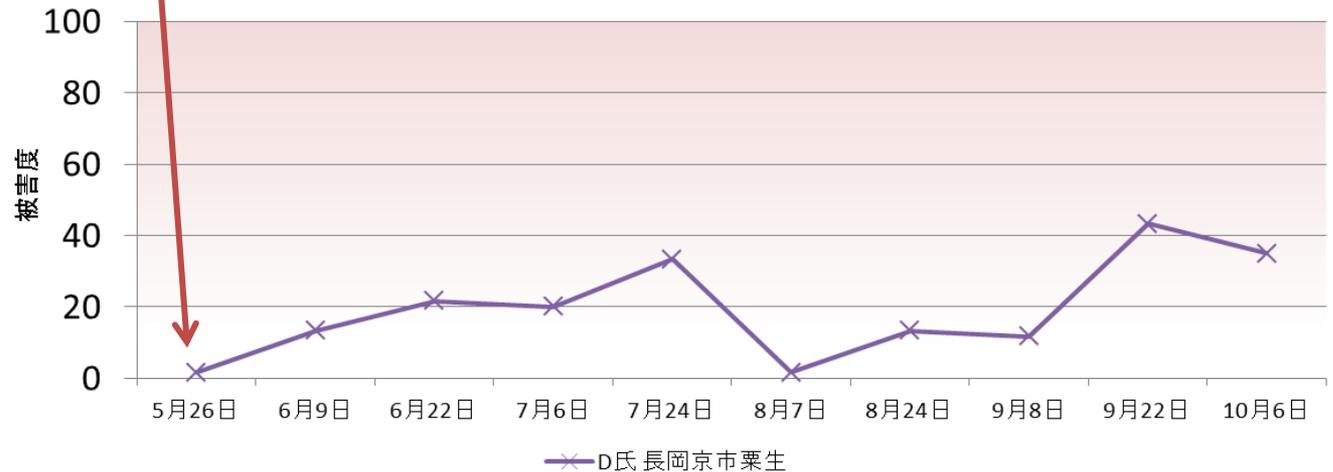
虫数

露地ナス圃場周辺雑草におけるカスミカメムシ虫数の推移(すくい取り)



防除

カスミカメムシ虫害 被害度の推移(ナス葉調査)



被害

# ！ポイント！

## ～ほ場周辺の環境について～

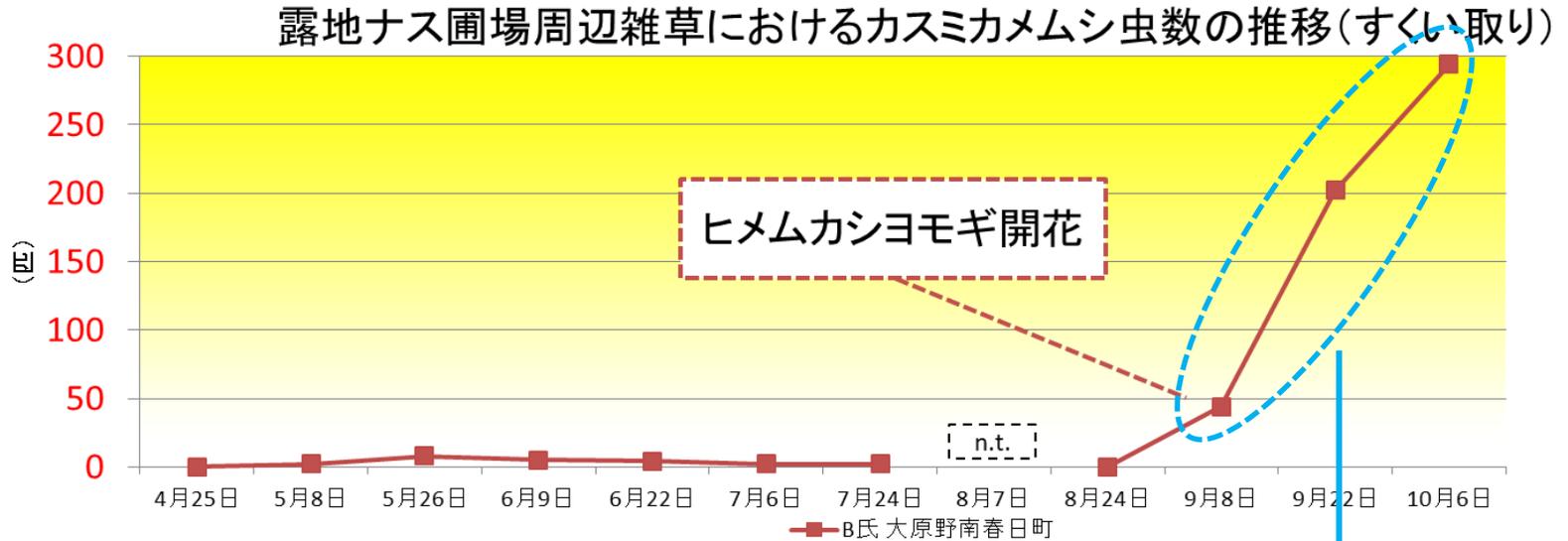
- ナスほ場の近隣に不耕作地などがある場合、除草や管理による刈り取り作業後に、ナスほ場にカスミカメムシ類が飛来する可能性が大きい



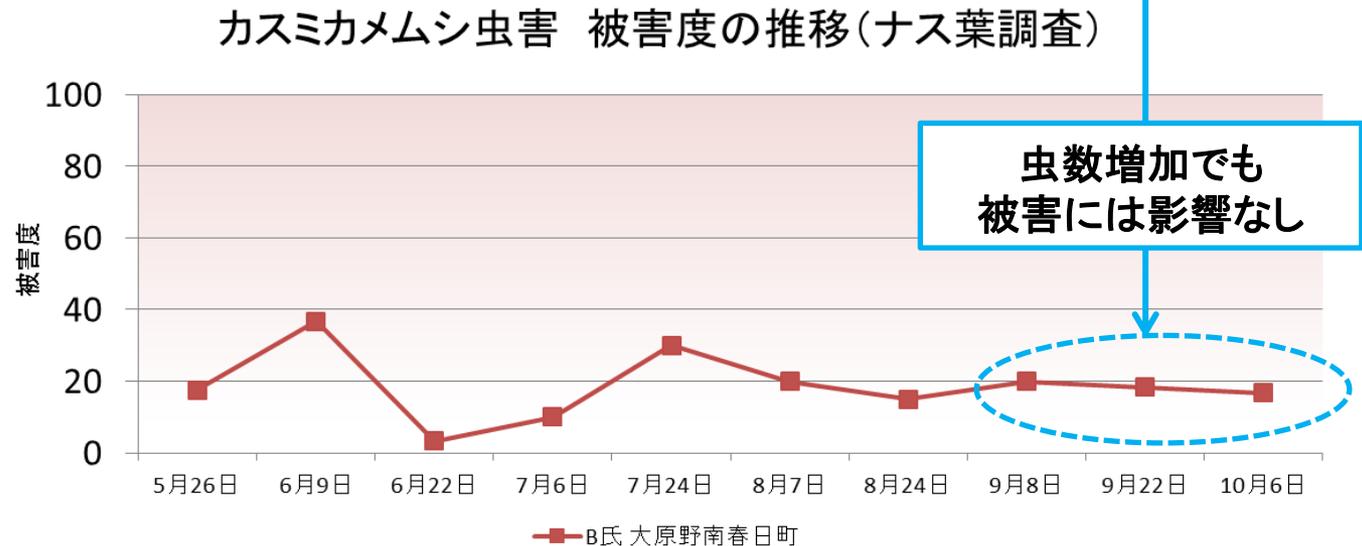
- 地域ぐるみでの農地管理の重要性
- 除草作業後のナスほ場における防除の重要性

# パターン2)の場合

虫数



被害





ヒメムカシヨモギ生育中期



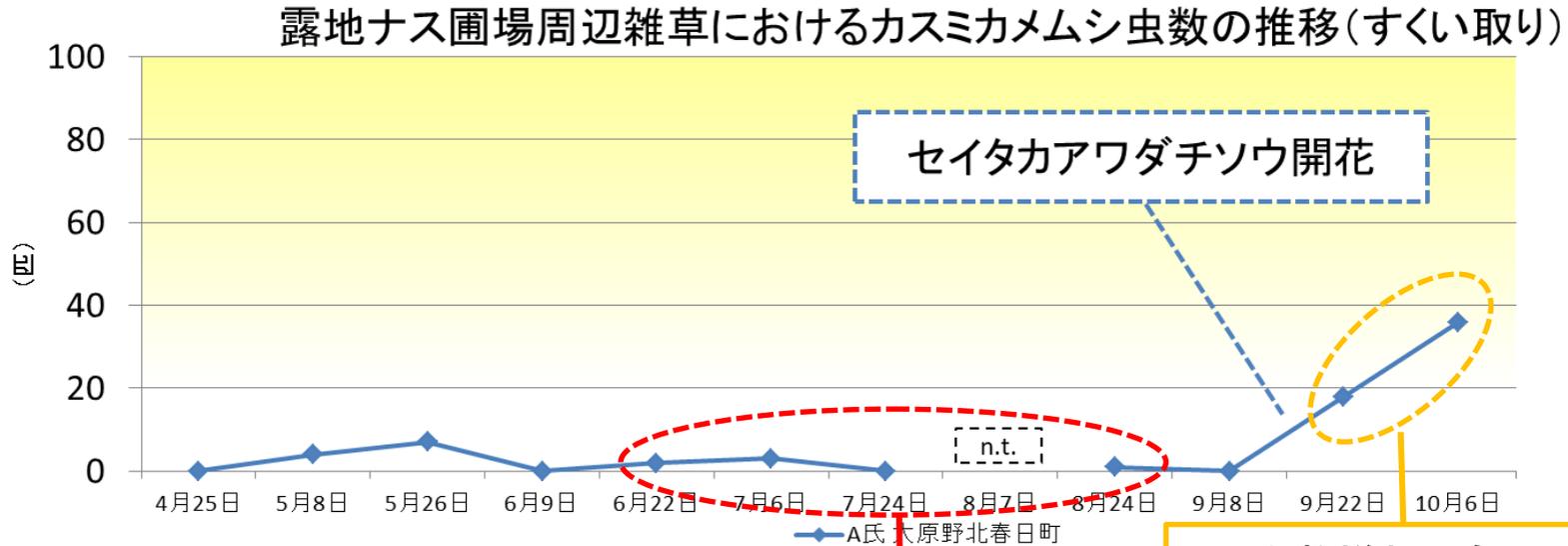
ヒメムカシヨモギ幼植物



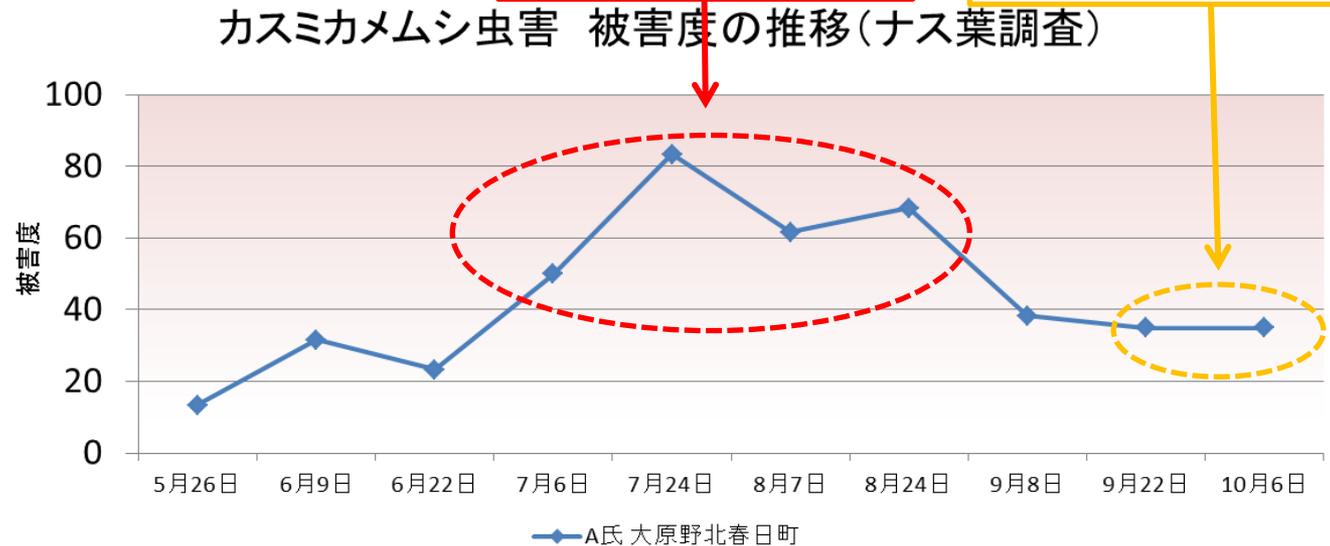
ヒメムカシヨモギ成植物

# パターン3) の場合

虫数



被害





セイタカアワダチソウ成植物



セイタカアワダチソウ幼植物

# ！ポイント！

## ～カスミカメムシ類が好む雑草～

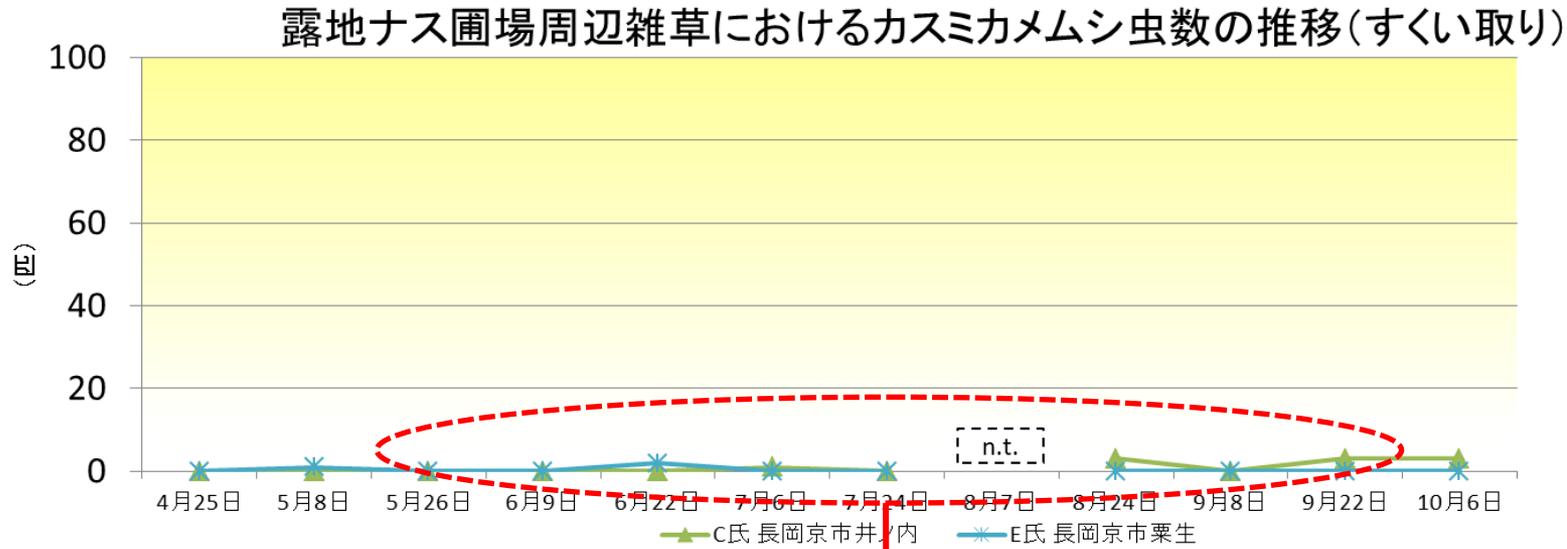
- ヒメムカシヨモギ、セイタカアワダチソウが開花する9月～10月頃は、これらの雑草で虫数が増加
- 特にヒメムカシヨモギでは急激な虫数増加
- この頃にはナスへの加害は少ない



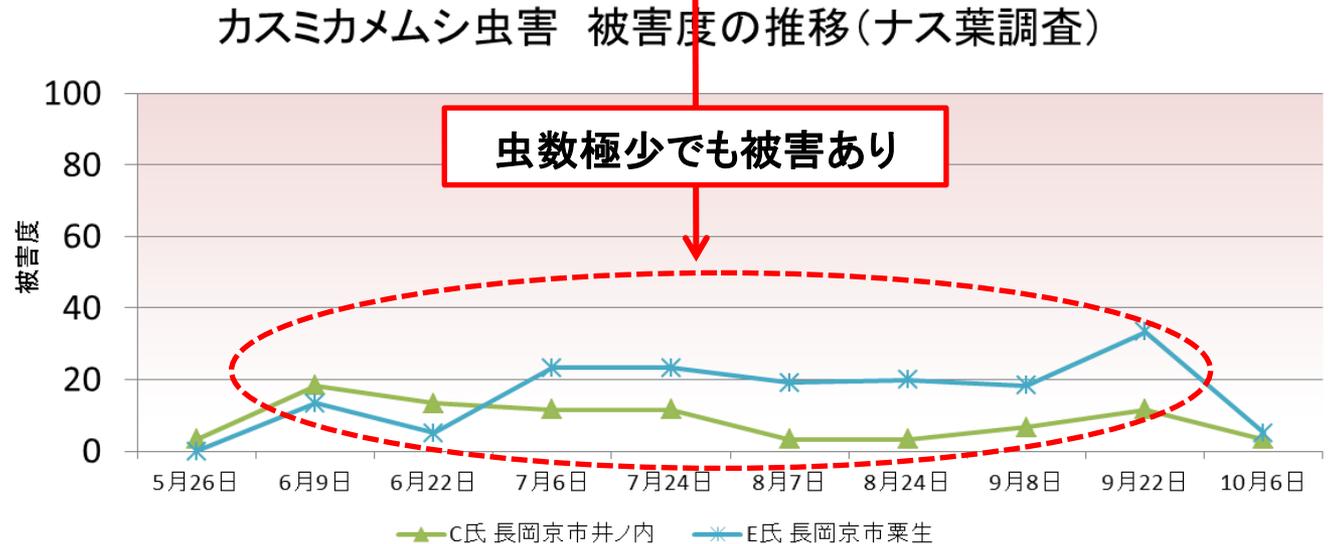
- 卵で越冬し、翌春5月上旬頃から孵化し、幼虫になる可能性大
- これらの雑草周辺ほ場で次作のナス栽培を行う場合は、初期からの防除が必要

# 虫数増加「特になし」の場合

虫数



被害



# ！ポイント！

## ～虫数と虫害の関連性～

- 周辺雑草での虫数が比較的低くても、虫害は全てのほ場で確認



- カスミカメムシ類の飛来距離は長いと想定
- 周辺雑草だけで虫害を予想することは困難

# 黄色蛍光灯の効果

(8月7日 E氏 長岡京市ほ場)



	無	少	多	被害株率 (%)	被害度
黄色蛍光灯 直下	25	5	0	16.7	8.3
黄色蛍光灯 遠く	14	14	2	53.3	30.0

# ！ポイント！

## ～発生と被害の傾向 時期推移～

- 5月上旬から畦畔雑草でカスミカメムシ類生息確認
- 5月下旬から虫害を確認
- 6月上旬まで増加傾向
- 8月に入ったら、いったん被害が落ち着く傾向



- 5月上旬のトンネル開放直後に一度防除を行う方がよい
- 盛暑期になると被害が減る傾向なので、7月下旬までの防除が重要

# 今後の取組

- カスミカメムシ類の越冬調査
- 「天敵にやさしい」+「カスミカメムシ類対策」  
を考慮した「農薬ローテーション」の提案